

木工科

木材等を主原料とする製品の製造などの学習を通して
勤労の体験を豊かにし、その意義を理解するとともに、
職業自立など社会自立に必要な基礎的・基本的な能力を高め、
実践的な態度を育てる。

「木材等を主原料とする製品の製造などの学習」



木工科では、3年間で色々な木工製品を作ります。できた製品は、夏と冬に行われる即売会で販売します。そのほかに、近くの施設などから、記念品などの製作の注文を受けることもあります。

きんろう 「勤労の体験」

木工実習室は「働く場所」です。3年間の作業学習を通して、「働く」体験を重ねます。物を作る事だけが、働く事ではありません。「仕事ってけっこう疲れるな」「ガマンしなきゃいけない事もあるんだ」「作りたい物が作れるんじゃないの?!」働くという事は、どういう事なのかを体験できる学習が、作業学習です。



いぎ 「その意義を理解する」



「何のために働くの?」「働くために必要な力は?」「自分がつけなくてはいけない力は何?」「自分の良さってどんなところ?」
作業学習、販売会だけではなく、他の教科や現場実習なども合わせながら、自分が働く目的や、高校生活で学ぶ目的を考えます。

しゃかいじりつ きそてき きほんてき 「社会自立に必要な基礎的・基本的な能力」

木工科で学んでいることは、木工のことばかりではありません。安全に仕事するための力、コミュニケーション、職場での望ましい態度やマナーなど、卒業後、どんな仕事についても、世の中で生活していくために必要なことを学びます。



じっせんてき 「実践的な態度」



高校生活で学んだことを、卒業した後の自分の生活に生かすことができることが、最大の目標です。

進級するにしたがって、より、社会生活を意識した態度で学習に取り組みます。そうして、自分の夢や目標をつかんだ先輩がたくさんいます。

～ 木工製品ができるまで ～

1. 製材せいざい



定規で計測をして、
のこぎりで切断したあと、
大型の機械で切断します。

2. パーツを作る



3. 穴をあける、自動一面かんなをかける



この工程が正確にできないと、組み立てができません。位置などを確認して、ていねいに作業します。また、パーツが小さくなるにつれ、安全への注意がより必要となります。

4. 研磨けんま（やすりがけ）をする



1つの製品を作る時に、最も時間がかかる工程で、生徒達が一番大変だと感じる作業です。気持ちがくじけそうになることもありますが、やりがいがあります。

5. 組み立てる



やっと製品の形が見えてきます。きれいに組み立てられた製品が並ぶと、嬉しくなります。

6. 塗装とそうをする



7. 仕上げの拭き上げをする

8. 完成！



仕上げの塗装をします。安全なオイル系の塗料を使うことが多いです。塗装後、点検しながら綺麗に拭き上げます。

